

## 会社情報 (2024年9月30日現在)

|          |  |
|----------|--|
| 商号       | SGホールディングス株式会社<br>(SG Holdings Co., Ltd.)  |
| 設立年月     | 2006年3月                                    |
| 資本金      | 11,882百万円                                  |
| 本社所在地    | 京都市南区上鳥羽角田町68番地                            |
| グループ人員   | 従業員数 93,882名<br>うち、パートナー社員等 (期中平均) 41,235名 |
| 事業内容     | グループ経営戦略策定・管理並びに<br>それらに附帯する業務             |
| 発行可能株式総数 | 1,800,000,000株                             |
| 発行済株式の総数 | 640,394,400株 (自己株式14,924,742株含む)           |
| 株主数      | 35,544名                                    |

## 株主メモ

|                       |  |
|-----------------------|--|
| 証券コード                 | 9143   |
| 事業年度                  | 毎年4月1日から翌年3月31日まで  |
| 定時株主総会                | 毎事業年度終了後から3カ月以内  |
| 株主確定基準日               | 毎年3月31日  |
| 剰余金の配当の基準日            | 期末配当3月31日、中間配当9月30日  |
| 株式の売買単位               | 100株   |
| 公告掲載方法                | 電子公告とします。ただし、やむを得ない事由により、電子公告により行えない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。電子公告は当社のWebサイトに記載しており、そのURLは次のとおりです。<br><a href="https://www.sg-hldgs.co.jp/ir/notice/">https://www.sg-hldgs.co.jp/ir/notice/</a> |
| 株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関 | 大阪市中中央区伏見町三丁目6番3号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部   |
| 連絡先・郵便物送付先            | 〒541-8502<br>大阪市中中央区伏見町三丁目6番3号<br>三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部<br>電話番号 0120-094-777 (フリーダイヤル)   |

Webサイトでも情報を開示しています

▶ <https://www.sg-hldgs.co.jp>



当社のWebサイトでは、グループ企業の活動全般にわたる最新の情報をご提供しています。また、「IR情報」では、決算短信や決算説明会資料の掲載をはじめ、経営方針や経営戦略、各種お知らせなどを幅広く発信しています。財務情報や事業内容などについての詳細はWebサイトをご参照ください。

▶ <https://www.sg-hldgs.co.jp/ir/>

※ 株式や配当についての情報は、「IR情報」の「株式について」からご覧いただけます。

**SGホールディングス株式会社**

# SGH

**SGホールディングス株式会社**

証券コード:9143

SGホールディングス株式会社

# 株主通信

第19期 | 中間期 2024年4月1日～  
2024年9月30日



本号のキーワード

「C&F社の  
グループ化」

▼  
詳細はP5-6を  
ご覧ください。

UD  
FONT



この印刷物のFSC®ラベルは、世界の森林資源の責任ある利用を保証します。



# Grow the new Story.

新しい物流で、新しい社会を、共に育む。

代表取締役社長 **松本 秀一**

## ご挨拶

株主の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。現在、日本経済は、一部では引き続き弱さが見られるものの、企業収益や設備投資等に改善・持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調にあります。その一方で、エネルギー価格の高騰や急激な為替変動のほか、米国や中国の経済成長鈍化による世界的な景気後退懸念や地政学リスクの拡大など、先行きは依然として不透明な状況が継続しております。物流業界においては、労働力不足や継続的な物価・人件費等のコスト上昇に加えて、ドライバーにおける残業時間の上限規制(いわゆる「2024年問題」)が2024年4月1日より適用開始されるなど、事業環境が日々変化しております。荷主企業の皆さまにおいては、2024年問題を背景に「運べな

くなるリスク」が懸念されており、既存のサプライチェーンの見直しによる効率化・最適化のニーズが拡大していると感じております。今後ますます高まるこれらのニーズに対応していくためには、川上から川下まで広がる当社グループの物流ソリューションを組み合わせる提案する、トータルロジスティクスの提供が重要だと考えております。社会インフラである物流を担う企業グループとして、止めることなく、高品質で魅力的なサービスを安定して提供してまいります。

## 2025年3月期上半期の業績について

デリバリー事業におきましては、物価高を背景に消費者マインドの改善は足跡が見られることや競争環境の激化などの影響を受け、宅配便の取扱個

数は減少いたしました。一方で、2024年4月からの届出運賃の改定や取引ごとの適正運賃収受の取り組みにより、平均単価は上昇いたしました。なお、費用面に関しては、足元の経済環境などを考慮し、社内外リソースの維持・確保のための投資を行っております。

ロジスティクス事業におきましては、フォワーディング事業を営むエクスポランカ社の海上・航空運賃が上昇いたしました。また、海上・航空貨物の取扱量は、地政学リスクによる影響や新規顧客の獲得等により好調に推移いたしました。

この結果、上半期の連結業績は、営業収益7,080億円(前年同期比10.0%増)、営業利益391億円(同0.7%増)となりました。

## 下半期業績の見通しと施策について

デリバリー事業におきましては、実質賃金の改善の遅れに伴う消費者マインドの弱さなどを背景とする需要回復ペース鈍化や厳しい競争環境の継続を想定しており、取扱個数の見通しを13.6億個から13.2億個へ修正いたしました。足元では厳しい状況が続いておりますが、ターゲットを絞った営業の強化や品質をはじめとした価格面以外のサービス向上による対応力の強化等の施策を行うことで取扱個数回復に取り組んでいます。

ロジスティクス事業におきましては、足元の動向を踏まえてエクスポランカ社の航空貨物の取扱量および海上・航空運賃の下半期の見通しを上方修正し、販管費の最適化とあわせて通期での黒字化を見込んでおります。

2025年3月期の連結業績予想は、株式公開買付け実施によって2024年7月にグループ化した(株)C&Fロジホールディングス(以下、「C&F社」という)の業績(2024年10月1日～2025年3月31日)を含め、また、上半期の業績や下半期の見通し等を踏まえて見直し、営業収益は1兆4,700億円(前期比

12%増)、営業利益は900億円(同1%増)を見込んでいます。

## 株主の皆さまへ

2025年3月期の中間配当は、2024年5月に公表した配当予想のとおり、1株当たり26円といたしました。

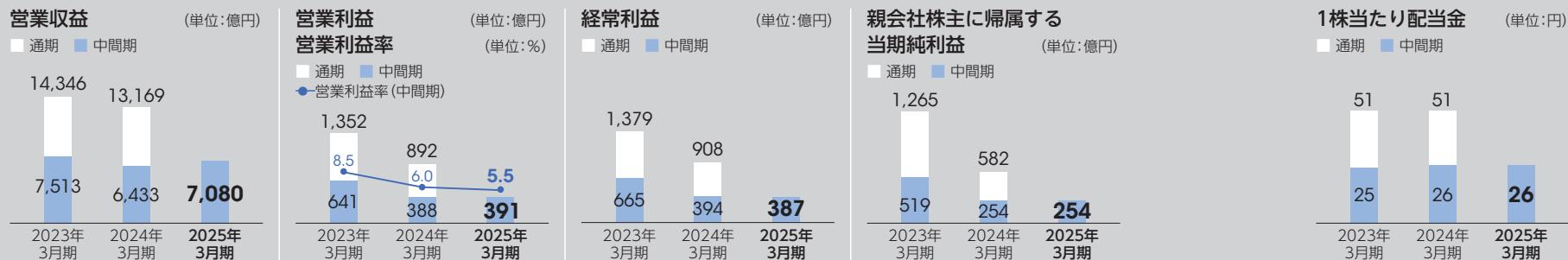
2025年3月期の連結業績予想は下方修正いたしましたが、配当につきましては、安定的な配当により株主の皆さまに末永く当社株式を保有していただきたいという考えのもと、中期経営計画で定めている「配当性向30%以上かつ前年からの増配を目指す」という配当方針に則り、年間配当で前年より1円増配の1株当たり52円を予定しております。

宅配便の取扱個数減少など、足元では厳しい状況が継続しておりますが、2030年に向けた長期ビジョン「Grow the new Story. 新しい物流で、新しい社会を、共に育む。」で掲げている「2030年度に営業収益を2.2兆円まで伸ばす」という目標は変わるものではありません。中核事業である宅配便を、事業競争力を高めながら安定的に成長させるとともに、宅配便以外のビジネスを大きく拡大し、宅配便と同規模まで成長させてまいります。低温物流に強みを持つ、C&F社のグループ化も宅配便以外のビジネスを伸ばすための施策の一環です。当社グループが持つラストワンマイルの機能とC&F社が持つサプライチェーンの上流から中流の低温物流機能を組み合わせることで、国内屈指のコールドチェーンを創出することが可能となります。

今後も成長領域への投資を通じて、宅配便にとどまらない新たな物流を創出し、持続的な成長を実現してまいります。

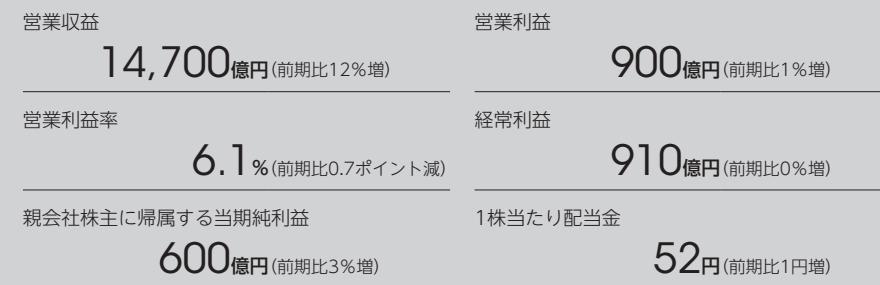
株主の皆さまにおかれましては、一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 連結業績の推移



※1 億円未満切り捨て(以降も同様) ※2 2024年3月期の実績については、前第3四半期に行った企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による見直し後の金額を記載(以降も同様)

## 2025年3月期 連結業績予想および配当予想



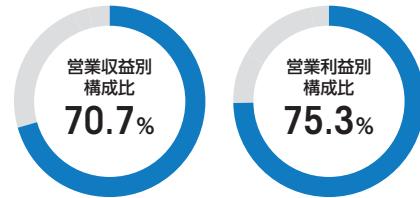
※3 通期の連結業績には、2024年10月1日から2025年3月31日までの期間のC&F社の業績見通しを含む

# セグメント別概況

※ セグメント間の営業利益の調整額は△3億円です。なお、各事業の構成比は調整前の営業利益で算出しています。



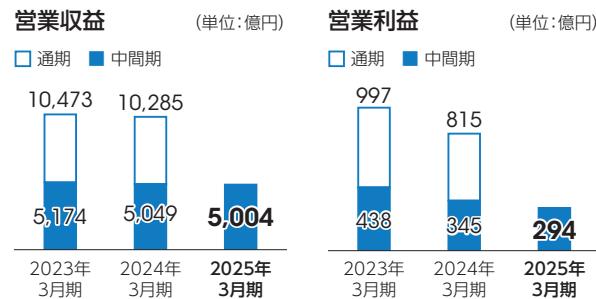
## デリバリー事業



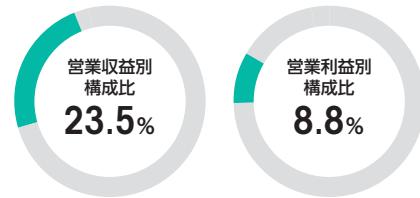
### 2025年3月期上期の概況と取り組み

グループの中核を担う当事業は、単なる輸送サービスにとどまらず、グループ各社との連携により、国内外問わず物流面からお客様の課題を解決するソリューションをワンストップで提供しています。佐川急便の飛脚宅配便を中心に、TMS、大型家具や家電などの組み立て・設置など、輸送に関わるさまざまなサービスを展開しています。

2025年3月期上期においては、物価高を背景に消費者マインドの改善に足踏みが見られることや、競争環境の激化などの影響を受け、取扱個数は前年同期を下回りました。一方、平均単価は取引ごとの適正運賃収受の取り組みを継続したことなどにより上昇しました。費用面では期初からパートナー企業への委託単価を引き上げるなどリソースの維持・確保にかかる費用が増加しました。このような中、2024年9月から、お客様が荷物の受け取り方法として置き配を選択できるサービスを開始するなど、利便性や、生産性の向上への取り組みも継続して行っています。



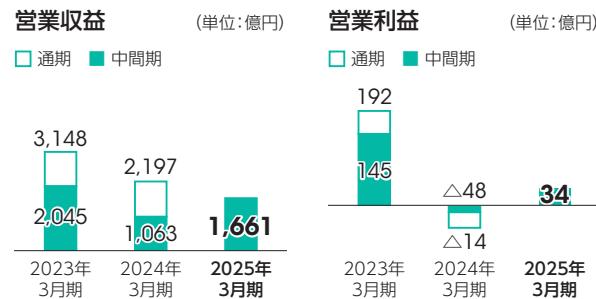
## ロジスティクス事業



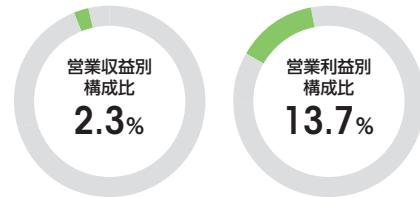
### 2025年3月期上期の概況と取り組み

当事業は、倉庫での保管、流通加工、通関、フォワーディングなどの国内外における包括的な物流ソリューションを提供しています。海外での事業については2014年にエクスポランカ社を傘下に加えたことを契機に、従来の日本を軸とした輸出入に加え、日本以外のアジアから欧米などへグローバルネットワークを活用した国際輸送を展開しています。

2025年3月期上期は、国際フォワーディングにおいて、紅海・スエズ運河の通航回避による海上輸送の混乱や航空輸送へのシフトに加え、北米東岸の港湾労使交渉の難航懸念に起因する海上輸送の出荷前倒し等を背景に、海上・航空運賃は上昇しました。また、海上・航空貨物の取扱量は、上記地政学リスクの高まりによる影響や新規顧客の獲得などにより好調に推移しました。



## 不動産事業

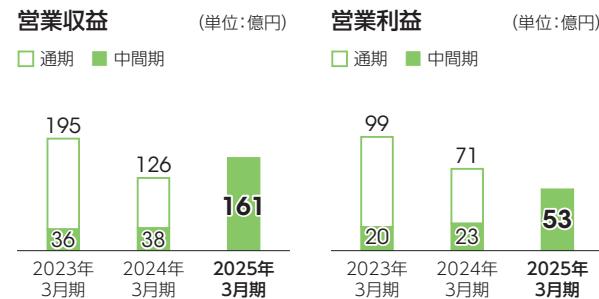


### 2025年3月期上期の概況と取り組み

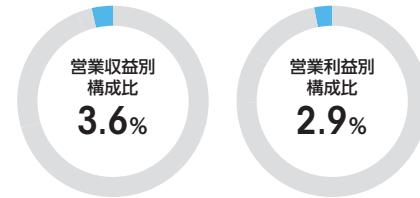
当事業では、新規物流施設の開発を通じたグループの競争力向上に取り組んでいます。また、老朽化した既存施設および物流効率の低い施設の大規模修繕やバリューアップにより、全国の輸送インフラの最適化を実現しています。

また、グループ各社の不動産ニーズを踏まえ、グループ施設の安定稼働と機能の強化に取り組むとともに、これまで培った不動産ノウハウを活かし、資産価値を向上させるための戦略的な投資を実施していきます。

2025年3月期上期において、保有不動産を売却しました。



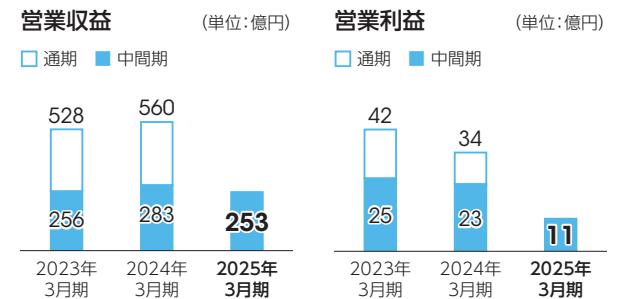
## その他の事業



### 2025年3月期上期の概況と取り組み

その他の事業では、お客様に提供する提案やサービスの品質を向上させるために、物流に付帯する各機能を担うほか、トータルロジスティクスを支える付加価値を創出、提案、提供しています。また、グループ内の業務効率向上に寄与する機能も担っています。

2025年3月期上期においては、BPO案件の減少のほか、大型トラック等の新車販売が減少しました。



# C&Fロジホールディングスのグループ化について



当社グループは2024年5月にC&Fロジホールディングス(以下C&F社)に対する株式公開買付け実施を公表、公開買付け期間を経て同年7月に同社をグループ化いたしました。本件について、質問をいただくことが多い項目を説明いたします。

## C&F社の概要

C&F社は、低温食品物流市場において、チルド物流・フローズン物流を軸に、きめ細かなサービスと高品質の物流サービスを提供する、専門性の高い物流企業です。名糖運輸、ヒューテックノオリンの2つの事業会社を柱に低温食品の物流センター業務・輸配送や冷凍食品の保管・荷役・輸配送などを提供しています。

### 主な事業会社



#### 名糖運輸

主にチルド食品を中心とした低温食品の物流センター業務および輸配送を行う事業



#### ヒューテックノオリン

主に冷凍食品の保管・荷役および輸配送を一体的に行う事業

## Q1 なぜC&F社をグループ化したのか?

当社グループでは多様化、複雑化するお客さまのニーズに応え続けるために「**トータルロジスティクスの提供を中長期戦略の柱としています。**」トータルロジスティクスの競争力を向上させるためには物流ソリューションのさらなる高度化が不可欠であり、その戦略に沿って、従来からの取引で親和性の高さを確認できていたC&F社のグループ化を決定しました。

### 物流業界を取り巻く環境認識

#### 運べないリスク／サプライチェーン分断リスク

- |  |   |
|--|---|
| <p>人手不足、ドライバー不足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化</li> <li>・ 時間外労働の上限規制(2024年問題)</li> </ul> | <p>インフレシフト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人件費の上昇</li> <li>・ エネルギーコスト増加</li> <li>・ 円安</li> </ul> |
|--|---|



#### 輸送ニーズの複雑化

- ・ お客さまの取扱商材の多様化
- ・ 生産拠点および販路のさらなるグローバル展開
- ・ 環境問題への対応要請

### 持続的な成長に向けた中長期戦略

#### トータルロジスティクスの提供

これらの環境変化に対応し、お客さまのサプライチェーン全体をコーディネートできる存在になるには、

**宅配便以外の事業の競争力を強化し、物流ソリューションのさらなる高度化が必要**

宅配便ではカバーしきれない、**サプライチェーンの上流～中流域を得意とするC&F社の低温物流事業は当社の中長期戦略に合致**

その他、グループ化の経緯、お互いの強み、ターゲットとする領域などの詳細な情報は以下をご参照ください

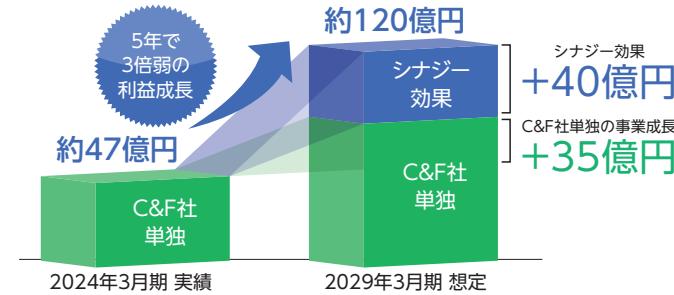
- 統合報告書2024はこちら → <https://www.sg-hldgs.co.jp/ir/library/annual/>
- 決算説明会資料はこちら → <https://www.sg-hldgs.co.jp/ir/library/presentation/>

## Q2 シナジーをどう見積もって出資を決定したのか?

(参考)C&F社 買付代金:約1,200億円(買付価格:1株5,740円)

両社の強みを掛け合わせ、C&F社のノウハウ・アセットを活かしたSGHグループのお客さまへの低温物流ソリューションの提供や、双方にとって新規領域となる新たな低温物流ソリューションの開発といった想定されるシナジー効果を踏まえ算出しました。また、C&F社以外の事業会社における、機会損失が発生していた案件の獲得など、C&F社の営業利益成長額75億円にとどまらない広範なシナジーの発現も見込んでいます。

### 想定するC&F社の営業利益成長

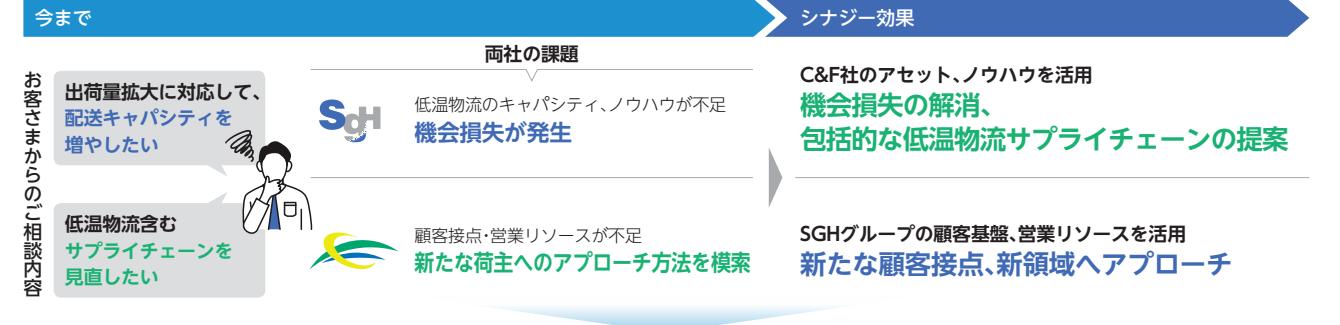


### 2029年3月期までの取り組み概要

- **収益拡大**  
食品市場等のラストワンマイルへの取り組み  
SGHグループのお客さまへのサービス提供  
国産食品の輸出案件  
メディカル輸送領域への拡大、等
- **コスト削減**  
重複機能解消、等

## Q3 PMI\*を進める中で見えてきた具体的なシナジーがあれば教えてほしい

低温物流のノウハウ不足等により発生していた機会損失がシナジー効果により解消、ご相談や引き合いが増加しています。今後も、SGHグループの営業リソースを活用することでC&F社の新領域へのアプローチも強化していきます。



### シナジーを活かしたご相談・ご提案事例

- ・ 食品メーカーの**仕分け配送**
- ・ 小売業**店舗配送物流**の効率化
- ・ **工場新設に伴う物流構築**
- ・ 外食産業**物流拠点見直し**
- ・ 水産物販売の**サプライチェーン改善**
- ・ **冷凍食材のEC物流**

### 具体的事例

| Before                             | After                                  |
|------------------------------------|--|
| 自社で製造・保管・出荷を行うも、配送会社の上限があり出荷量拡大に制限 | 名糖運輸の全国センターを活用し、物量に応じて共同配送と宅配便を使い分けて出荷 |

\* PMI (Post Merger Integration) : 合併・買収成立後における経営の統合プロセスのこと